

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年2月17日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102724
法人名	有限会社 コーボー
事業所名	グループホーム コーボー
所在地	鹿児島市西陵5丁目12-3 (電話) 099-283-6723
自己評価作成日	令和4年1月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年2月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○平成14年に開設し今年20年目を迎えます。ホームは西郷団地内にあり近隣にスーパー・銀行・学校、病院、薬局があります。またバス停も目の前にあり利便性の良い環境にあります。

○母体は病院で系列のグループホーム19ヶ所、特養、老健などの施設があり相互の連携、協力体制が整備され入居者様、ご家族様の安心につながっています。

○職員の介護福祉士の有資格者も多く、さらに資格取得や内部研修・外部研修に力を入れさらなる資質の向上に努めています。

○コロナ禍で職場体験は実習中止になりましたが西陵中学校での講演を行い、コロナが落ち着けば看護学校の実習受け入れ、地域行事への参加など再開します。

○コロナ禍で地域に貢献できるものを検討し近隣のグループホーム3事業所と障害者施設共同で町づくり協議会の協力のもと地域の高齢者などに手作り石鹸を配布しています。

○施設内では季節の花、野菜を栽培し利用者と一緒に収穫、食材に取り入れることで季節を感じてもらっています。また通りがかりの住民やバス停で待つ住民の方々にも畑を見て楽しんでもらっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市中心地から数キロほど離れた西陵地区(西郷団地)の中心地に平成14年に開設されており、道路を挟んで同法人系列の老人保健施設やグループホームが設置され、周辺にはスーパーや金融機関、病院、学校、薬局、個人住宅、公園等があり利便性は高い。法人母体の医療機関や系列の特別養護老人ホームや老人保健施設、グループホーム(19施設)、在宅福祉事業所が市内にあり、本部が主体となって情報を共有し、運営や研修の実施、災害時の協力体制等が構築されている。協力医療機関とは24時間医療連携により適切な医療が受けられ、また、日頃から衛生や健康管理を徹底しており、利用者や家族の安心と信頼に繋がっている。

地域密着型事業所として地域住民との交流に努めており、西陵まちづくり協議会に加入して地域のイベントや学校行事への参加、手作りの石鹸の配布、高齢者福祉や認知症ケアに関する住民からの相談対応など地域の一員として積極的に取り組んでいるが、コロナ禍に配慮して、現在はボランティアの受け入れ、買い物、イベントへの参加は自粛している。ホームの前が幹線道路のバス停になっているため、行き交う住民もホームの菜園を眺めたり利用者とは話をするなどの交流が日常的に行われている。

管理者及び職員は理念を共有し年間の目標も設定して、利用者の尊厳や人格、想いを大切に安全なケアに努め、併せて、その人らしい生きがいのある暮らしとなるように、心身の状態や生活習慣に配慮しながら趣味等の個別支援にも努めている。利用者及び家族からの意見や要望等を、ケアの中や面会、電話等で汲み取り、全員で協議して改善に繋げており、アンケートの結果からも家族の信頼度の高さが窺える。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える良好な人間関係を構築しており、日頃の業務の中やミーティング、申し送り等で忌憚なく意見や要望を出し合って運営やサービスの改善に努めている。管理者は、勤務シフトに有給休暇の取得や個人的事情等も配慮し、日常的にケアの助言指導や研修の充実、職員の資格取得へのバックアップ等、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。法人による給与や福利厚生体制も充実されて、職員のモチベーションアップに繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝の申し送り時に唱和している。また理念についてのアンケート調査「理念について感じることを、行っていること、出ていないこと」を行い、理念の見直しが必要かもアンケートし理念を意識付けている。	理念は、ケアの目標と共に目に付き易い玄関等に掲示し、日頃のケアの中やミーティング時に唱和や振り返り、実施状況の確認等を行って周知を図っている。理念に関する職員アンケートも実施して見直しの必要性や周知状況等を把握し、理念に沿って利用者が安全でその人らしく暮らせる支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	「町内会」に加入「西陵まちづくり協議会」の構成員になっている。近隣の3つのグループホーム、障害者施設と協力して手作り石鹸を西陵地区の高齢者を中心に配布した。そのほか施設内の畑は四季を通じてきれいに整備し町内の方の目の保養にもなっている。	町内会や西陵まちづくり協議会に加入し、地域の清掃活動やイベントへの参加、散歩や買い物時の会話、中学校での講演、農産物の差し入れ、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談への助言等、円滑な交流が図られているが、コロナ禍のため現在は、買い物、外食、ボランティアの受け入れ、ホームの行事への住民の参加等は控えている。ホームページにより、情報の発信にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	西陵中学校、看護学校の実習受け入れを毎年行っていたがコロナ禍で出来なくなっている。西陵中学校の職場体験が中止になったが3年生を対象に講演を行った。またコロナ禍でホームページをリニューアル中でさらに見やすいものを発信できるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動状況や利用者の生活状況をムービーメーカーで編集したものを紹介し眼に訴えることで活動をわかりやすく報告している。また新聞、テレビ、公的機関等の最新の情報発信や勉強会を開催している。現在はコロナ禍の為、職員のみで開催となっている。	会議は、家族、民生委員、町内会長、市担当者等が出席して隔月毎に開催しているが、コロナ禍により現在は職員での会議に変更し、資料や会議録を送付して意見や助言を貰うようにしている。利用者の状況やホームの運営、行事、感染症予防、ヒヤリハット等を議題にしており、寄せられた委員からの情報や意見はミーティング等で検討して改善に繋げている。会議録は常時、玄関に置いて、家族等の閲覧に供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れや各種手続きには市役所に出向き相談に乗ってもらっている。また鹿児島市主催のウェブ上での研修会に参加している。コロナ前の運営推進会議では地域包括支援センターの職員に参加していただき情報をいただいている。	市の担当者とは窓口に出向いたり電話で、介護保険の更新や各種制度の報告及び協議、感染症予防の情報取得等を行い、助言や指導、提案を貰うなど、法人本部とも協力して日頃から協力関係を築いている。市主催のウェブによる研修の参加や情報の把握に努め、運営やサービスの向上を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」および年間研修スケジュールに沿って身体拘束をテーマに研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフには身体拘束の3原則を掲示し職員の意識付けを行っている。日中は、居室玄関の鍵を掛けず、職員が徹底した見守りや声掛けをして安全で自由な生活をしていただけるよう支援している。	身体拘束や高齢者虐待については計画的な研修の実施や外部研修に出席して認識を共有している。身体拘束適正化の為に委員会（年4回）も定期的に開催し、事例による意見交換等でサービス形態の確認に務め、拘束の無いケアに取り組んでいる。昼間は施錠しないで、外出したがる利用者には対話や寄り添いで気持ちの安定を図り、不適切な発言や対応（対話時の目線や食事介助方法等）には、随時、助言して利用者の状況に配慮したケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを作成し、勉強会を開催したり、報道関係で取り上げられた場合、朝のミーティングで話し合ったり、回覧にて職員への周知徹底を図り、理解を深め、遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間計画で内部研修を行い外部研修にも参加している。成年後見制度を利用している入居者様お一人いらっしゃいます。その保佐人と連携を取って成年後見制度について教えていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書の読み合わせを時間をかけて行っている。またわからない点は十分な説明を行っている。介護報酬の改定時、その他契約上に変更があるときは運営推進会議、面会時、文書で説明を行い、同意書により署名捺印をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入口に意見箱を設置している。また面会時、電話応対時、行事参加時、家族会、運営推進会議などで常に、問いかけ何でも言ってもらえるような親しみのある雰囲気づくり、関係づくりをしている。現在はコロナ禍の為、家族とは入居者様の状態報告の際に意見をうかがうようにしている。	利用者や家族とは気軽に意見を言って貰える関係づくりに日頃から配慮している。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で理解し、家族からは面会や電話、手紙、「コーボーだより」「状態報告」で状況を伝えながら把握に努めているが、県内の新型コロナウイルス感染状況次第では面会を制限し、家族会も自粛している。出された意見・要望はミーティング等で協議して改善を図っている。来年度から家族アンケートの実施を計画している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り・ミーティング時に、意見や要望、提案を聞くように心掛け、質の向上に繋がるよう努力している。また職員全員の個人面談を行い職員の意見等を聞くようにしている。	管理者及び職員は気軽に意見を言い合える信頼関係の構築に努めており、日頃の業務の中やミーティング、職員アンケート等で意見や要望を出し合い、また、個別面談も行って働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。管理者は、日常的にケアに関する助言・指導や研修を実施し、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情も配慮すると共に資格取得のバックアップにも努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者をはじめ職員の努力や実績・勤務状況を把握したうえで、昇給や資格手当等につなげ、各自が向上心や、やりがいを持って働けるよう職場環境の整備に努めている。介護福祉士や数名の職員がケアマネの試験に挑戦している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>多くの職員が研修に、参加出来る機会を設け、研修報告書を提出し職員が閲覧出来るようにしている。また月1回の事業所内研修およびグループ内の研修など全員で技術や知識を身につけ、個々の質の向上を図っている。また法人の負担で介護支援専門員協会に加入し研修に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループ全体で19ヶ所のグループホームがある。統括するグループホーム管理課を中心にLinkitで迅速な情報交換を行っている。また月に1回の19ヶ所合同のミーティングおよびグループ内病院、老健、特養等において情報交換、勉強会を行いサービスの向上につなげている。昨年12月近隣のグループホーム3事業所合同の餅つき大会を開催している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談にて、生活歴や身体状況等を把握する様に努め、場合によっては、家族の協力を得て本人の思いや不安を受け止め言葉に出せない方は、本人のしぐさや表情からの気づきをもとに信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍で面会を制限していた時もあるが家族面会時には「何か相談事はないですか？」とこちらから声を掛け、要望等を引き出すようにしている。また、面会に来れない家族については電話にて近況を伝えるようにしている。また、言葉遣いも事務的にならないよう話しやすい雰囲気を中心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時、本人の状態やご家族の思いを確認し、本人に一番適したサービスを見極め支援の提案をしている。早急な対応が必要な方には、他サービスへ繋げるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である利用者から生活の知恵や技を教えてもらう機会を多くもてるよう工夫している。「不安」「こだわり」「喜び」「望み」など本人の思いを共感し、共に支えあう関係づくりに努めている。また、可能な限りお手伝いをさせていただくように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会は制限されたが面会時、電話、ホーム便りで近況を報告し情報を共有している。また定期受診や臨時受診の報告、さらに課題が生じたときはご家族と相談しながら家族と一緒に本人を支えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の為、面会が制限され行事もご家族は参加できず十分な関係を保つことは難しかったが電話で話をしていただいたりホーム便りに元気な写真を掲載、また県外のご家族には写真を送ったり関係が希薄にならないように対応している。	利用者ごとの馴染みの情報を把握しており、通常は面会や買い物、ドライブ、訪問美容、外食、一時帰宅等を家族の協力を得ながら取り組んでいるが、現在はコロナ禍に配慮して、面会は制限し、外出や一時帰宅、ボランティアの受け入れ等も控えている。通院の送迎時には自宅に立ち寄り馴染みの街並みや季節の風景を車窓から楽しんでいる。家族との電話や手紙等を取り次ぎ、また、写真の送付やホームだよりで利用者の状況を伝える等、日常的に関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように、皆で楽しく過ごす時間や気の合う利用者同士で過ごせる場所や場面づくりをするなど、またその時の相性で席替えをおこなうなどの他、職員が調整役となって支援している。コミュニケーション困難な方は、職員が間に入り孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は入院、看取りなどによるが、ご家族とお会いしたときは病状を伺ったり、思い出話をしたりつながりを持ち続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、本人がどのように生活したいか会話や行動、表情などから思いを気づき、意向に添えるよう、家族・職員間で随時、相談や検討をしている。意思疎通の難しい入居者様にはご家族からの情報や日頃の様子から意向をくみ取るように努めている。	重度化に伴いコミュニケーションが難しい利用者もいるが、日頃の会話や仕草、独自のサイン等から思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら、その人らしい安全で生きがいのある暮らしの支援に取り組んでいる。利用者の意向に沿って大正琴の演奏や食材の下ごしらえ、テーブル拭き、洗濯物たたみ、菜園での収穫等の取り組みを体調や残存能力に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には評価や感謝の言葉を添えて自己肯定感が得られるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族にこれまで過ごしてきた生活歴をうかがい、また入居前のサービス事業者などの情報や入居後に知りえた情報など職員間で共有しケアに役立てるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族の情報を得ながらその中で出来ないことより出来る事・やりたいことに注目しその人全体の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の要望や職員の意見、情報（言葉に表せない方からは表情・行動からの気づき）を基に利用者が望む暮らしが少しでもできるように介護計画を作成している。また主治医に相談しながら本人の状態変化に応じて計画の見直しを行っている。	利用者、家族の思いや意向を日頃の関わりの中で把握し、主治医の指示やモニタリング時の職員の意見等を基に、残存機能や楽しみ事等にも配慮した利用者主体の介護計画を作成している。利用者の状況変化時には計画を実態に沿って変更しており、ケアの実施状況は日誌や「日常生活での身体状況」等に詳しく記録して共有を図っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や申し送りノートに状態変化や気づき、ケア内容を記入し職員全体で情報を共有し日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望により通所リハビリ、訪問マッサージ、訪問看護の導入、また家族の状況に応じて、入退院対応や母体でない診療科通院にも同行出来るよう体制を整え必要な支援は柔軟に対応している。また家族の事情により衣類、日用品などの購入も支援している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練（火災、地震）には田上分遣隊、また地域行事の際にはボランティア・町内会長・民生委員・西陵中学校・鹿児島実業高校の協力を得ながら支援参加している。現在はコロナ禍の為、自粛しているがいずれは再開する予定である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医や希望の病院へ受診している。他科受診は受診の付き添いやご家族とも同行しており、普段の様子や変化を伝えるようにしている。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、殆どの利用者が協力医療機関を主治医としているが、入所前の医療機関での治療を継続している利用者もいる。定期的な受診が実施され、他科受診も家族と連携しながら同行しており、受診結果等は家族にも密に伝えて状態の共有を図っている。ホットラインを活用しての24時間医療連携の体制を整備し、日頃から衛生や健康管理を徹底して、利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>提携医療機関にて「24時間ホットライン」を設置し、緊急時は医師・看護師より指示をもらうなど医療介護が行えるよう連携体制が整っている。状況に応じて訪問看護を利用している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>コロナ禍で入院先の面会はほぼ禁止されているが病院地域連携担当者などとこまめに連携を取り合い早めに退院できるようにしている。また病院関係者との関係づくりは協力医療機関を中心に顔づくり連携が出来ている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化や終末期における介護指針を示し、入居後も本人と日常の会話の中そして家族と面会時、担当者会議の際に重度化・終末期の有り方について意向を確認している。また緊急時の搬送先希望表にご家族の意向確認を得られるようにして職員全員で情報を共有している。昨年3名の方の看取りをしている。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、入所時に利用者及び家族に指針を示しながら説明して理解を得ている。入所後も状態の変化に応じて随時、意向の確認を行い、職員は状況を共有している。従来は最終段階で医療機関への入院に至る状況が多かったが、昨年は家族の看取りへの意向に沿って、訪問看護も活用したチーム体制で希望に沿ったケアに取り組んで3件の看取りを実施している。看取り終了後は振り返りや意見交換等を行って職員の不安感の軽減やスキルアップが図られている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員全員で勉強会を開き急変や事故発生時に応急手当や初期対応ができるように備えている。また、急変時の「24時間ホットライン」が設置してある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回、5月・11月に田上分遣隊の立会による昼と夜の防災避難訓練のほか地震など災害に関する訓練を実施している。また、近隣の関連施設と災害時の連携をとっている。</p>	<p>夜間発生を想定した火災、地震対応の災害訓練を年2回（内1回は消防署立ち合い）近隣の同法人系列の3事業所が時間をずらして実施している。また日常的に避難経路や消火器の設置場所等の確認を行い、災害の報道を話題にして防災への認識を共有している。食料や飲料水は7日分程度を備蓄し、介護用品やカセットコンロ、ラジオ、懐中電灯等も備え、近隣の事業所との災害時の協力体制も構築している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の声かけや関わり方を年長者として敬意を払い、馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応にならないようにお互いに注意しあい職員の意識向上を図っている。また記録等も個人情報に十分配慮して取り扱いと管理を行っている。	利用者の人格の尊重やプライバシーの保護、個人情報の対応については重要事項、契約書等にも明記され、利用者や家族の理解を得ている。職員は計画的な研修の実施やミーティング等での意見交換で認識を共有し、利用者の個性や習慣、心身の状態等に配慮しながら自己決定を尊重した支援に努めており、ホームはプライバシーに配慮した構造になっている。入室時は声掛けやノックを励行し、排泄や入浴等のケアは羞恥心にも配慮して適切な声のトーンや言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人のペースに合わせ理解できる様にゆっくりと分かり易い声かけをしたり、意思表示が困難な方にはしぐさや表情などからの気持ちを汲み取るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。一人々のペースを大切に体調により朝寝・昼寝も出来、スタッフとおしゃべりを楽しんだり、利用者の思いを大切に見守りながら日々の生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ支援し、自己決定のしにくい利用者には職員と一緒に考えて本人の気持ちに沿うよう支援している。また行きなれた理美容院に行ったり、訪問理美容を利用し好みのカットにしている。以前行っていたボランティアのお化粧、マニキュアはコロナが落ち着き次第、再開する予定。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを相談したり食材の下ごしらえや味見をしてもらい盛り付け・片付けまで職員と共に行い同じテーブルで楽しく食事が出来るように支援している。また、好き嫌いにより別メニューで対応している。また、コホー畑で栽培した季節の野菜と一緒に収穫、食卓に出す事で楽しんでもらっている。	「食事は利用者の何よりの楽しみで関心も深い事」を意識して、好みや栄養バランス、形態、季節感、盛り付け、代替品等、細かに配慮し、菜園で収穫した野菜も活用して調理している。おせちや彼岸、お盆等の行事食、敬老会、クリスマス時の仕出し弁当、ラーメンの出前、誕生日の希望食、手作りのおやつなど工夫しており、利用者も食材の下処理やテーブル拭き等を楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人々の嗜好・習慣・体調を考慮しバランスの取れた食事を提供している。水分については個別にペットボトルに水を準備し脱水にならないように管理している。嚥下機能が落ちている入居者へ刻み、ミキサー、とろみの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が付き添い磨き残しや舌苔がないか確認している。義歯、ブラシ、義歯ケースの消毒や協力歯科医院に受診・指導も受けその人に合った口腔ケアを行っている。「口きれい肺きれい」の徹底に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンの把握に努め、「トイレで気持ちよく排泄出来る」ことを基本に訴えの出来ない入居者様は時間でトイレに案内している。また紙パンツから布パンツへの移行も個人の状態に応じて検討・実施している。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態やパターンを把握した支援をプランに反映させて取り組んでいる。昼間は声掛け等で可能な限りトイレでの排泄を支援して排泄感覚の維持に努めている。利用者の状態に応じて介護用品やケアの方法を工夫し、便秘の予防に植物繊維の多い食事や自家製ヨーグルト、水分の摂取、運動量に配慮し、状況によっては主治医にも相談して緩下剤を服用して改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維の多い食材・自家製ヨーグルトなどを毎日の食事に取り入れ工夫している。個々の状態に合わせて散歩や生活リハビリを通して適度な運動を行い、提携医療機関の指示のもと緩下剤調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	温泉を利用している。入居者の体調や希望を確認しゆっくり入浴できるよう支援している。また、入浴を拒む人に対しては、言葉掛けを相性の良い職員と交代することによって一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。また、体調により入浴できない場合は清拭などで対応している。	道路向かいの法人系列の老人保健施設の温泉を導入して基本週3回、個浴での入浴を支援しており、必要時には、その都度、陰部洗浄等で保清している。入浴の順番や温度、時間、同性介助等は利用者の意向に沿って柔軟に対応してゆっくり楽しんで貰い、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を行っている。入浴をためらう利用者には無理強いしないで、清拭への変更や時間、声かけ等を工夫し、利用者自身の意欲を待って支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中にレクリエーションや軽い運動、日光浴などで活動的に過ごしてもらい自然で快適に入眠してもらっている。消灯時間を設定せずに個々の希望に合わせてテレビを見てゆっくり過ごしたり眠れるように支援している。寝付けけない方には飲み物等を準備しておしゃべりをするなど配慮している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者一人々の薬の効能・副作用・用法・用量について確認している。処方変更時にはその都度申し送り、その後の状態変化の確認と記録を行っている。また、薬の変更時は家族に連絡、承諾してもらっている。服薬は二人で確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事料理や毎日の料理方法、など利用者の知恵・経験を発揮する場面を作っている。事業所内の自家栽培園の植え付け・草取り・収穫などを共に行い楽しんでいる。またyoutubeで故郷の動画をテレビで紹介すると懐かし自然な笑顔が出ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>コロナ禍で希望に沿った外出支援はできていない。例年は季節ごとの花見（菜の花・桜・コスモス）やミカン狩り、外食などを取り入れている。</p>	<p>コロナ禍の為、制限はあるが、感染予防対策を徹底して利用者の状況に応じて園庭での日光浴やお茶飲み、菜園での野菜収穫、近くの公園での花見、通院送迎時の一時帰宅や街並みを車窓から楽しむなど工夫して外出しているが、買い物、外泊、外食、墓参等は控えている。地域のイベントの殆んどが中止され、ホームの行事も十分には実施できない現状が続いているが、室内での軽い体操やゲーム、カラオケ、音楽・ビデオの視聴、職員による楽器の演奏等、工夫してリフレッシュを図っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の能力に応じて金銭管理をしている。手元に小遣いを持っている方も有り、管理できない方は買い物時のみ財布を手渡し支払ってもらうなどの工夫をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて、日常的に電話しやすい雰囲気づくりや手紙も出せるように支援している。個人で携帯電話を使用する方はいない。特に遠方で面会が難しい入居者様には「久しぶりに電話してみましようか。」と声かけ、電話している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間ではご飯の炊けるにおい・食材を刻む音・茶碗を洗う音・好みの音楽、テレビ・季節ごとのフローアの飾りつけなどを共に行ったりして生活感や季節感を意識的に取り入れ居心地良く暮らせるよう工夫している。</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは、明るく余裕あるスペースが確保されており、テーブルやソファ、テレビ等が動線や利便に配慮して設置されている。利用者の作品や行事の写真、季節の活花等が随所に飾られ、対面キッチンからは調理の音や臭いが伝わるなど和やかな雰囲気になっている。清掃や室温、換気、整理整頓等を徹底し、感染症予防のため手指消毒剤等も設置され、不快に感じる音や臭い等もない環境の中で、利用者は季節を感じながら快適に過ごしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール・廊下に椅子やソファを置き気の合う入居者同士・家族・スタッフも含め、思い思いに過ごせるような場所を提供している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の希望や生活歴を考慮し、家族と相談しながら思い出の品々・写真・仏壇等を持って来て頂けるように声をかけし、本人や家族と共に思い出話をしながら飾り付けをしている。</p>	<p>洋室の居室は腰高窓の構造で明るく、余裕ある広さが確保されており、ベッド、洗面台、エアコン、タンスが利用者の状態や意向に合わせて配置されている。利用者は在宅時に愛用していた寝具やテレビ、ラジオ、家族写真、仏壇、楽器、小物等を持ち込み、自身の作品や頂き物も飾って、家庭同様に落ち着いた雰囲気のある居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者の状態にあったテーブルや椅子を用いたり、(椅子、テーブルの高さ調整)車椅子が自由に行き来できるスペースを確保している。個々の身体状況に応じてトイレ・ローカなどの居住環境が適しているか見直し、入居者一人々に適した介護環境づくりを行い、安全確保と自立への配慮を工夫している。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない